

岩船寺：三重塔

自然の豊かな丘に包まれた岩船寺の境内の中心には、三重塔がそびえています。寺伝によれば、834－847年の間に、仁明天皇(810－850)が、有名な僧侶を偲んでこの三重塔を建立したと伝えられています。しかし、1943年の解体修理の際に、1442年の銘文が発見されました。1221年の兵火により岩船寺のほとんどの寺塔を失ったことから、この銘文の日付は正確であると考えられ、現存する塔は室町時代（1336－1573）の建立とも考えられています。

ほとんどの寺院の塔は下から見上げるのみですが、岩船寺では、三重塔の周りを囲むように上がっていく小道があります。このため来観者はとても珍しいことに18mの高さの塔を上から、またあらゆる方向から見ることができます。各層のそれぞれの四隅に小さな像があり、肩で垂木を「支えている」のが間近で見とれます。この像のことを「隅鬼」と言います。全て違った表情をしており、重要文化財に指定されています。

特別公開期間中には、三重塔の内部が一般開扉されます。初層の壁には、祭壇の後ろには、様々な色で彩られた仏画が描かれています。本堂にある木像の「普賢菩薩騎象」は、以前はここに祀られていました。普賢菩薩は、慈悲と理知を顕している菩薩です。岩船寺の普賢菩薩騎象は、女性的な優雅さを表わし、女性の救済と復活を導く仏様と考えられてきました。平安時代（794－1185）に造られ、重要文化財に指定されています。